

令和6年7月23日  
株式会社シーエス・ワンテン  
ブロードキャスト・サテライト・ディズニー株式会社

### ディズニージュニア 番組審議会議事録

- ・日時 令和6年6月4日(火)16:00～
- ・開催場所 東京都港区虎ノ門 1-23-1  
ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社 27階会議室
- ・参加者 審議委員総数 9名  
出席委員数 5名  
書面参加委員数 3名  
欠席委員数 1名

#### (出席委員名)

- 委員長 村川 幹夫 ((株)オリコンME WEB編集本部 執行役員/編集長)
- 委員 清水 優子 (ナレーター・キャスター・(有)タイムリーオフィス代表)
- 委員 太田 美千子 ((株)講談社 第三事業本部局長)
- 委員 須貝 駿貴 (学術博士・QuizKnock)
- 委員 吉田 千佳 (ユーチューバー)

#### (書面参加委員名)

- 委員 名越 康文 (精神科医・評論家)
- 委員 堀越 礼子 ((株)朝日新聞社 取締役)
- 委員 パトリック・ハーラン (タレント・大学講師)

#### (欠席委員名)

- 副委員長 藤田 興彦 (学校法人和田実学園 元評議員)

#### (衛星基幹放送事業者：株式会社シーエス・ワンテン)

- 福田 泉 (代表取締役社長)
- 中口 裕丈 (編成局長)

#### (番組供給事業者：ブロードキャスト・サテライト・ディズニー株式会社)

- 小峰 利憲 (取締役)
- 伊藤 由起 (編成 ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社)
- 竹内 文吾 (編成 マネージャー)

待鳥 雅之（編成 アシスタント・マネージャー）

山本 綾子（編成 スペシャリスト）

戸泉 真由子（編成 ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社）

田内 恵美子（編成 ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社）

- ・ 議題 (1) ディズニージュニアの番組編成について  
(2) 審議番組『スーパーキティ』について

・ 議事内容

（以下、\*：委員からの意見・質問、→：ディズニーの説明・回答）

(1) ディズニージュニアの番組編成について

→6月の編成ハイライトは下記の通り：

- ・ 2日(日) 新シリーズ『モーフルとまほうのペット』2話連続放送。
- ・ 9日(日) 特別編成「ドナルドダックのおたんじょうび！」。
- ・ 16日(日) 特別編成「ブルーイ ちちの日のおはなし」。
- ・ 22日(土) 特別編成「キーヤとキモージャヒーロー とびきりサタデー！」。
- ・ 30日(日) 特別編成「パグ・パグ・アドベンチャー わくわくサンデー！」

(2) 審議番組『スーパーキティ』について

・ 放送概要：

令和5年7月22日(土)に、日本初回放送。

約24分×全26話（第1シーズン）。

・ 番組内容：

キティデールの街に住む4匹の子猫、ジニー、スパークス、バディ、ビッツィ。

誰もがただの可愛い子猫だと思っているのだけれど、ひとたび事件が起こるとスーパーキティに変身！スーパーキティの任務は、スーパーパワーや、かっこいいマシン、そして何より優しさを使って、世界をより良い場所にすること。そんな4匹の子猫の活躍を描いた、可愛くも勇敢なアクション満載のテレビシリーズ。

→ストーリーとしては、ネコの特性を生かした武器や戦法を用いつつも、彼らの一番の武器である優しさによって解決に導くという心温まる展開で、「集中力」「想像力」「コミュニケーション力」といった力を育む内容。

→作品の見どころは、可愛いキャラクターたちが、アクション満載で活躍するというギャッ

プの楽しさが見られるところ。

→大人も楽しめるくらいの、キャッチーな歌が聞けるところも本作の特徴。

→本シリーズは今年の未就学児童向け作品の部門にて、賞を2つ受賞している。

- \*音楽がとてもキャッチーだし、いろいろと面白い「小ネタ」も多くて、おそらくこの番組のターゲット層からは一番遠いであろう自分としても、楽しく見させてもらった。
- \*問題の解決方法が平和的で、本当のターゲットである小さい子に安心して見せられるのがさすがディズニーだと思った。
- \*丸々としていて、フサフサしているキャラクターが可愛くて、ビビットな色で未就学児にはピッタリ。
- \*「変身」の時の音楽やテンポが良い。
- \*仲間と協調して問題を解決していく様が理解しやすく学べる。想像力を刺激する。
- \*身近な生物が出てくるのが、感情移入しやすい。
- \*作品全体として、すごくストーリー展開にリズム感があり、音楽にも感動した。
- \*キャラクターについては、特に悪役が強く印象に残っていて、主人公であるネコたちに対して、とても貫禄がある強い敵としてネズミが出てくるところが意外で、こういう意外性を入れているのは、良いチャレンジだと思う。
- \*可愛くて、触りたくなる感じの絵が小さい子には良い。
- \*音楽がどこことなく懐かしいと思った。昔のヒーローものに似ていて不思議な感じがした。
- \*一番気に入ったところは、悪いことをしてしまった人たちにも訳があって、こういう意見があってもいいと思えた。
- \*端的にいうと、問題と思えるところは何もない。この作品にも、ディズニージュニアには普遍的なものが来るという安心感がある。
- \*大人としても安心できる。
- \*大人目線で見ても分かりやすいというのは、子供にとっても良い番組。子供向け番組の部門でアワードを受賞するのも頷ける内容だ。
- \*鮮やかで集中が続くテンポで見やすい。
- \*いつも通り、あるべき教訓もちゃんと入っている。だが、エピソードの前編と後編で同じような教訓の内容だったので、少しエピソード間隔を開けて他の教えもはさむ等してから、再度その教訓を入れ込むほうが良いかもしれない。前編と後編を小分けにして放送するのも良いと思う。
- \*最初に出てきたブランケットを見つけて、「それはあなたのものじゃないから駄目よ」というレッスンがあり、それを子供たちに教えてくれていて良かった。
- \*男女差を感じずニュートラルな世界感なので良い。5歳の女の子と2歳の男の子が、一緒に楽しく見られた。
- \*悪役にも人間味があって、良い設定だった。

- \*猫の毛並みがリアルでびっくりした。2001年公開の『モンスターズ・インク』を経て、2013年の『モンスターズ・ユニバーシティ』のサリーの毛並みを見て、ピクサーの技術の高さと進化に驚かされたが、そこから更に10年が経ち、ついに未就学児向けの番組でも毛並みの表現はここまで凄くなったのかと感じた。
  - \*大人が共感するポイントも多くある。大切なものというのは、大人になってから気づくものである。一緒に見ている保護者の満足度も高い作品。
  - \*変わらない安定感と楽しさがあるとともに、変わってきたところは、男女の概念をあえて入れない傾向が強くなってきたと思える部分。主人公も大体の場面で、一人称で「僕」とか「俺」といった形をとっておらず、格好的な部分においても男女間の差は見られなかった。
  - \*戦隊ものでは割とありがちな各キャラクターの色によって性格や役割や性別が分けられているような部分も見受けられなかった。こういう変化が自然に織り込まれているのがすごいと思った。
  - \*ユニセックスな印象を受けた。世界観が男女のどちらに寄っているわけでもない。子猫に雄雌は関係なく、人間に必要な教訓を与えてくれる。
  - \*子供がフラットに見られる作品。
- 新規のオリジナル制作のテレビシリーズの展開には困難があったりもするが、視聴者の方々からは好評を頂いているので、これからも大事に育てていきたい。

- **審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置その年月日：**

今回の審議会に出された意見については、審議会が開かれた令和 6 年 6 月以降、各番組のプロデューサー、担当者へのフィードバックをはじめ、番組制作会議等で活用し、さらなる番組の向上のために適切な措置を講じるよう努めていく。

- **審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法、及び年月日：**

令和 6 年 8 月以降に、ホームページに審議会概要を掲載、公表する予定。

以上

